

## 令和5年度「産科管理者研修会」

タスク・シフト/シェア(院内助産・助産師外来)における助産師の専門性発揮の現状と課題

講師:日本看護協会常任理事

鹿児島県保健医療福祉課医務係主幹兼係長

鹿児島大学病院

鹿児島市立病院

井本寛子氏

近藤誠己氏

鎌賀愛助産師長

近藤尚美主査

日時:令和5年9月2日(土) 9:30~12:30

場所:鹿児島県看護協会 看護研修会館3階

対象:産科管理者、各施設の助産師、産科看護師

参加者数:24名(zoom参加者含む)

今年度も日本看護協会の井本寛子理事にリモートでの講話を行って頂きました。少子超高齢化社会を迎え、助産師は地域の保健師とネットワークを繋ぎ、女性の健康増進に携わっていく必要があること、器(自施設)に入っただけでは私たちの専門性を理解してもらえない、活用してもらえないことなどを教授して頂きました。また周産期医療・母子保健分野における国の動向についてもご説明頂きました。「こども家庭庁」が創設され、こども・子育て支援の充実や未就学児への性教育の実施等、様々な取り組みに助産師として何ができるか、非常に考えさせられるご講話でした。

鹿児島県の近藤誠己氏からは自治体による「医師の働き方改革」の施行に向けての現状報告を、鹿児島大学病院の鎌賀愛助産師長、鹿児島市立病院の近藤尚美主査からは、現場におけるタスク・シフト/シェアの実際についてご講話頂きました。活発な質疑応答もあり、大変充実した研修となりました。

